

第 13 回「中国地区 GHP 研究会」開催のお知らせ

謹啓

寒さの厳しい時節ではございますが、先生におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

第 13 回の研究会は、「EBM」をメインテーマとして開催する運びとなりました。

特別講演は、慶應義塾大学医学部臨床リサーチセンター特任講師の中川敦夫先生にお願いしております。中川先生は、大学の臨床研究教育研修室長として、最新の方法論に立脚して臨床研究医の育成に携わりながら、米国留学中からうつ病の臨床評価についての国際共同研究を続けておられます。最近はインターネット支援型の認知行動療法を開発し、その有効性に関する研究も推進されています。うつ病の診断と治療について、DSM-5 や CBT に関する RCT の話題を交えて、大変興味深いご講演が聴けるものと思います。

ご多忙のことと存じますが、何卒ご出席賜りますようよろしくお願い申し上げます。

謹白

記

日時：平成 26 年 3 月 15 日(土) 16:00～19:00

場所：ホテルチューリッヒ東方 2001

<http://www.b-mozart.co.jp/hotel/>

参加費(予定)：1 名につき 1000 円（当日受付にて徴収させていただきます）

【ケースディスカッション】16:00-17:40

治療のポイントで質問を設定し、実際になされた選択を示しながら、症例呈示を行っていく参加型のセッションです

ケース 1

座長 広島市立広島市民病院 精神科 和田 健 先生

「維持 ECT を行っている初発難治性うつ病の一例～維持 ECT のスケジュールは具体的にどうする?～」

広島大学病院 精神科 福本拓治 先生

ケース 2

座長 県立広島病院 精神神経科 高畑紳一 先生

「強迫性障害に対して SSRI と Quetiapine を併用した一例の EBP (evidence-based psychiatry) 的検討」

広島大学医師薬学総合研究科 高石佳幸 先生

【特別講演】18:00-19:00

座長 広島大学病院 精神科 福本拓治 先生

『うつ病の診断と治療アップデート：DSM-5とCBTのRCTを中心に』

慶應義塾大学医学部 臨床リサーチセンター (CCR)
特任講師・臨床研究教育研修室長 中川敦夫 先生

共催：中国地区 GHP 研究会

顧問 山脇成人 (広島大学大学院・精神神経医科学)

内富庸介 (岡山大学大学院・精神神経病態学)

代表世話人 和田 健 (広島市立広島市民病院・精神科)

明治製菓ファルマ株式会社